

令和 5 年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立難波中学校

令和 6 年 2 月

学校運営の方向性

- 子どもたちが楽しんで通うことのできる、居場所としての学校を創造する。
- 主体性を重んじ、自ら課題を発見し、協力して解決する力を育む。
- 働き方改革及び教育 DX を推進し、必要となる知識・スキルを習得し、積極的に校務運営に活用する。

教育目標:「自律・協力・創造」

- 「自身の行動に責任を持ち、自分で考え、正しく判断し、積極的に未来を切り拓く生徒」を育成する。
- 「互いの人権を守り大切に、周囲と協力し、人を思いやる優しい心を持つ生徒」を育成する。
- 「新しい発想や考え方をもち、何事にも一生懸命に取り組むことができる生徒」を育成する。

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 3 年度までの学校運営全体を通じての成果としては、次にあげるようなものがあった。

- いじめの・虐待等についての研修の実施により、教職員の理解、迅速な対応へとつながった。
- 一人一台端末の効果的な活用に向けた取組について、教員が試行錯誤し、一定の操作スキルを獲得することができた。
- LGBTQ の課題に教職員の力を結集し、標準服のモデルチェンジなど、課題解決に向けた第一歩を踏み出すことができた。
- 区内の子どもたちの連携がオンラインなど限定的なものになってしまったことは仕方ないが、つながりを大切にするために各校の取組を共有することができた。

しかしながら、目標を達成できなかった項目に見られた課題については、次にあげるようなものがあった。

- 不登校生徒等に対する適切な支援について、「好ましい変化が見られた」「登校できるようになった」割合が全体の 14%であった。
- 読解力の向上に係る取組については、期間が短かったため、研修から授業実践、効果検証までに至らなかった。また、継続して、自己肯定感が低く、自信がない生徒が多いと感じられる。
- サポーター・元気アップ・各主担と連携した学習会について、夏季休業中の学習会には多数の生徒が参加したが、感染防止対策による定期テストの実施回数の減少などがあった

よって、今年度は、昨年度の成果を伸ばし課題を改善するために、次のようなことに取り組んでいく。

- 不登校生徒等に対する適切な支援について、重大事案への危機感を常に持ち、チェック機能を確実に機能させる。
- 読解力の向上に係る取組について、教科を越え、教育活動のあらゆる機会を通じ、読解力向上を意識した教員研修(外部講師による研修を含む)を実施し、授業実践を継続する。また、全学年でリーディングスキルテストを実施し、教育センターとも連携して教員の指導力向上を図る。また、人権教育、キャリア教育等を各教科横断的に、自他を尊重する心、自己の将来との繋がりを見通し、自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけさせるための教育課程の充実を図る。
- ICT 機器の効果的な活用について、オンライン・オンデマンドと従来の学習形式のハイブリッドで実施する。
- サポーター・元気アップ・各主担と連携した学習会について、学校全体をあげての取組とし、生徒の自主学習環

境を整える。また、生徒が家庭学習に取り組めるよう、デジタルドリルの活用を推進する。

中期目標

安全・安心な教育の推進

- 全国学力・学習状況調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 82%以上にする。
 - R3: 75.2%、R4: 80.0%、R5: 76.0%
- 全国学力・学習状況調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 95%以上にする。
 - R3: 94.2%、R4: 92.8%、R5: 93.3%
- 全国学力・学習状況調査における「自分には、良いところがありますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 77%以上にする。
 - R3: 72.5%、R4: 81.9%、R5: 77.3%

未来を切り拓く学力・体力の向上

- 全国学力・学習状況調査における平均正答率の対全国比を、令和 7 年度末に国語・数学とも 1.00 以上にする。
 - R3:国語 0.94、数学 0.96、R4: 国語 0.96、数学 1.05、R5: 国語 0.92、数学 0.92
- 本市調査(大阪市英語力調査)における CEFR A1 レベル(英検 3 級)相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を、令和 7 年度末に 56%以上にする。
 - R3: 52.6%、R4: 48.2%、R5: 45.0%
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、令和 7 年度末に男女とも 1.01 以上にする。
 - R3: 男子 0.99、女子 0.99、R4: 男子 1.11、女子 0.98、R5: 男子 0.95、女子 0.89

学びを支える教育環境の充実

- 学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除き、授業日において学習者用端末を毎日使用する。
 - R4: 100%、R5.11: 100%
- 「学校園における働き方改革推進プラン」における、教員の勤務時間の上限に関する基準 1・2 を満たす教職員の割合について、令和 7 年度末に大阪市平均以下にする。
 - R4: 基準 1…38.71%、基準 2…54.84%、R5.12: 基準 1…31.03%、基準 2…58.62%
- 全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)」に対して、読書時間が 30 分未満の生徒の割合を、令和 7 年度末に 65%未満にする。
 - R3: 76.9%、R4: 67.2%、R5: 72.1%
- 全国学力・学習状況調査における「今住んでいる地域の行事に参加している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、令和 7 年度末に 50%以上にする。
 - R3: 27.0%、R4: 29.1%、R5: 28.0%

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

安全・安心な教育の推進

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 80%以上にする。
 - R4: 78.0%、R5: 87.3% 達成
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
 - R3: 12.56%、R4: 11.3%、R5: 14.9%
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
 - R3: 2.41%、R4: 13.6%、R5: 55.6% 達成

学校園の年度目標

- 校内調査「学校へ行くことが楽しいですか」に肯定的な回答をする日本語指導が必要な生徒の割合を 50%以上にする。
 - R5: 100.0% 達成
- 校内調査「学校へ行くことが楽しいですか」に肯定的な回答をする生徒の割合を 82%以上にする。
 - R5: 82.1% 達成
- 校内調査「生活指導に積極的に取り組み、生徒を主体とした規範意識の醸成に取り組んでいますか」に最も肯定的な回答をする教職員の割合を 63%以上にする。
 - R5: 50.0%
- 校内調査「命の大切さや人権について学んでいますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を 95%以上にする。
 - R5: 98.6% 達成

未来を切り拓く学力・体力の向上

全市共通目標

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 46%以上にする。
 - R4: 45.3%、R5: 55.7% 達成
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.2 ポイント向上させる。

		R3	R4	R5		R3	R4	R5
3 年生	国語	0.95	0.91	0.87	数学	0.88	0.80	0.85
2 年生	国語	---	0.86	0.98	数学	---	0.90	0.93
1 年生	国語	---	---	0.89	数学	---	---	0.78

- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能)を 49%以上にする。
 - R4: 48.2%、R5: 45.0%
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。

- R4: 54.1%、R5: 65.1% 達成

学校園の年度目標

- 校内調査「授業の内容が分かるようになっていきますか」に最も肯定的な回答をする日本語指導が必要な生徒の割合を 55%以上にする。
 - R5: 75.0% 達成
- 校内調査に「規則正しい生活をしていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を 74%以上にする。
 - R5: 75.5% 達成
- 校内調査「毎日歯を磨いていますか」に否定的に回答する生徒の割合を 2%未満にする。
 - R5: 0.9% 達成
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を昨年度よりも向上させる。
 - R4: 男子 45.37、女子 46.44、R5: 男子 39.29、女子 42.05

学びを支える教育環境の充実

全市共通目標

- 学習者用端末を活用した学習を、教科の授業実施日には毎日実施する。
 - R5.11: 100% 達成
- 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 75%以上にする。
 - R5.12: 75.0% 達成
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 39%以上にする。
 - R4: 35.48%、R5.12: 31.03%

学校園の年度目標

- 校内調査「読書をすることは好きですか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を 38%以上にする。
 - R4: 37.7%、R5: 37.3%
- 部活動指導員を配置した部の顧問の部活動指導に関わる時間の平均を昨年度よりも減少させる。
 - R4: 135:56、R5.12: 91:50 達成
- 校内調査「学校の様子や取組について、ホームページ等でよく知ることができていますか」に最も肯定的な回答をする保護者の割合を 48%以上にする。
 - R4: 47.3%、R5: 36.0%

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の学校運営全体を通じての成果

- いじめ・虐待等については、教職員の理解も深まり、迅速な対応(認知、認定)へとつながっている。
- 学校の規則について、社会通念上、合理的でないというルールを見直してきたが、まだまだ積極的に見直しているところもある。
- 生徒間で話し合う活動については学校全体で定着してきているが、活動のためのしっかりとした「型」が全員一致で示されていない。また、自分の考えを論理的に伝える力が弱いため、深い学びにつながりにくい。

項目や取組の重点の置き方について

- 定期テストや授業観察から、生徒の伝える力が弱いことが見て取れる。「論理力」を身につけ、自分の考えや思

いを論理的にかつ簡潔に相手に伝える力を、教員も生徒も習得する必要がある。

- 生徒の最善の利益を求めると同時に、「生きる力」を育み伸ばしていくため、教職員がそれぞれの長所を生かしながら、「毅然と対応する」・「丁寧に対応する」・「達成感を与える」・「我慢して見守る」・「失敗経験・成功体験を積ませる」必要がある。

目標を達成できなかった項目に見られた課題について

- 不登校生徒等に対する適切な支援について環境整備を行ったが、その対応の方法、適切な人員の配置、その教室を使用する対象生徒の共通認識が必要課題である。またスペシャルサポートルームの活用についても、本当に必要な生徒が安心して活用できるよう、使用方法や場所、広さなどの見直しが必要である。
- 家庭訪問や学習支援、保護者との関係づくりなど、地に足をつけた地道な取組をしっかりと行う。また、「学校安心ルール」に基づき、問題行動の対応について連携し、毅然と対応することで、おとなしく目立たずとも地道に頑張っている生徒が安心して学ぶことのできる環境の構築に努める。
- 教育活動のすべての場面において、論理力の向上を見据えた子ども達への関わり方を、全教員が意識して継続する必要がある。
- ICT 機器の活用をさらに洗練し、不登校生徒への学習保障、進捗・達成状況の管理を実施する。また、生徒には情報モラルの向上が急務であり、合わせて情報リテラシーの向上を図る必要がある。

成果を伸ばし課題を改善するために、次年度に向けて取り組むこと

- 不登校生に対して、学習ツールを活用し、不登校生徒への学習保障、進捗・達成状況の管理を実施する。
- スペシャルサポートルームの活用についても、場所の移動やスペースの有効活用などの見直しを行う。
- 生徒の見取りにおいて Hyper-QU を継続活用し、指導においては、全員が「毅然と対応する」・「丁寧に対応する」ことを意識する。
- 論理力を身につけるための取組(R80)を、すべての教科指導や教育活動においてすすめる。また、授業での説明や発問に対しても全教員がそれを意識した授業展開を行う。その実施場面においては、テストや日々の授業の振り返りの場面で記述させたり、声に出して発言させたり工夫し、継続して実施する。
- 次年度は浪速区制 100 周年である。「探究・読解プログラム」等を通して、地域資源と協力・連携した取組を進めるとともに、「達成感を与える」・「我慢して見守る」・「失敗経験・成功体験を積ませる」ことを大切に、大人たちが「失敗を恐れず、チャレンジする」姿勢を持ち続け、それを見ている生徒が「チャレンジ精神」や「学びに向かう力」を高められるようにする。歯磨き指導や保護者への受診勧告など、健康教育の取り組みを進める。
- 体育科では、個々の目標設定を意識づけ、授業以外でも運動に取り組む習慣を身につけさせる。
- 部活動について、学校の活動だけでなく、放課後の地域での受け皿を開拓し、居場所の確保や、個々の趣味に没頭できる場を広げていくとともに、教職員の負担軽減にも取り組む。

大阪市立難波中学校 令和5年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
安全・安心な教育の推進 全市共通目標 <ul style="list-style-type: none"> ● 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 ➤ R4: 78.0%、R5: 87.3% 達成 ● 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 ➤ R3: 12.56%、R4: 11.3%、R5: 14.9% ● 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 ➤ R3: 2.41%、R4: 13.6%、R5: 55.6% 達成 学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ● 校内調査「学校へ行くことが楽しいですか」に肯定的な回答をする日本語指導が必要な生徒の割合を50%以上にする。 ➤ R5: 100.0% 達成 ● 校内調査「学校へ行くことが楽しいですか」に肯定的な回答をする生徒の割合を82%以上にする。 ➤ R5: 82.1% 達成 ● 校内調査「生活指導に積極的に取り組み、生徒を主体とした規範意識の醸成に取り組んでいますか」に最も肯定的な回答をする教職員の割合を63%以上にする。 ➤ R5: 50.0% ● 校内調査「命の大切さや人権について学んでいますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。 ➤ R5: 98.6% 達成 	B

……指標、

……結果

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 1-1【基本的な方向 1-1 いじめへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ対策基本方針、対応フローチャートを周知徹底し、教職員研修を定期的実施する。 いじめについて考える日の取組やアンケート等の情報から、早期発見実施迅速な初動対応により未然防止を行う。 <p>① 校内調査「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を 80%以上にする。(昨年度 78.0%)</p> <p>① R5: 87.3% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-2【基本的な方向 1-2 不登校への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> Hyper-QU の診断結果から生徒の満足度や生活意欲、ソーシャルスキルを把握し、教職員研修により生徒理解を深める。 スペシャルサポートルームを活用し、きめ細やかな対応を行う。 <p>① 新たな不登校生の割合を昨年度以下にする。(昨年度 3.7%)</p> <p>① R5: 4.6%</p>	C
<p>取組内容 1-3【基本的な方向 1-3 問題行動への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導に積極的に取り組み、関係諸機関とも連携しながら、生徒を主体とした規範意識を醸成する。 <p>① 校内調査「学校のきまり・規則を守っていますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を 68%以上にする。(昨年度 68.6%)</p> <p>① R5: 70.3% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-4【基本的な方向 1-4 児童虐待への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向け研修を通して、スクリーニング会議や端末の機能を積極的に活用し、虐待事案を関係諸機関と連携し対応する。 <p>① 校内調査「友達や先生に相談しやすい雰囲気がありますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。(昨年度 50.3%)</p> <p>① R5: 56.6% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-5【基本的な方向 1-5 防災・減災教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 区役所、消防署、地域と連携した組織的な対応で減災効果を高め、避難訓練の実施や、防災・減災教育の充実を図る。 <p>① 校内調査「災害について自ら考え判断し、行動することができる」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を年度内で向上させる。</p> <p>① R5.7: 40.7%、R5.12: 52.4% 達成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 1-6【基本的な方向 1-6 安全教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 交通ルールの遵守や情報モラルについて、関係諸機関等と連携を図り、交通事故やその他の事故、犯罪被害等の未然防止につなげる。 <p>① 校内調査「ネット上のルールを守り、パソコンやスマートフォンの正しい使い方ができていますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。(昨年度 61.6%)</p> <p>① R5: 74.1% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-7【基本的な方向 2-1 道德教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 道德教育に関する研修や相互授業参観、スクールアドバイザーからの指導助言を受け、指導方法についての研修等を通して教員の授業力を高めるとともに、生徒の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。 <p>① 校内調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。(昨年度 45.3%)</p> <p>② 校内調査「学校をきれいにしようと努め、清掃活動に取り組んでいますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。(昨年度 56.6%)</p> <p>① R5: 55.7% 達成</p> <p>② R5: 63.7% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-8【基本的な方向 2-2 キャリア教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特別活動と各教科等との関連を図るとともに、企業や団体等との連携による職業講話や見学、職場体験学習、様々な人材による出前授業など、体験的な学習を実施する。 <p>① 校内調査「自分の将来に夢や希望をもっていますか」に最も肯定的な回答する生徒の割合を昨年度より増加させる。(昨年度 42.1%)</p> <p>① R5: 43.4% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-9【基本的な方向 2-3 人権を尊重する教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 校内研修や近隣の学校園と連携し、地域の実態に応じた、様々な個別の人権課題についての理解と認識の深化充実を図る。 <p>① 校内調査「生命の大切さや人権について学んでいますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を97%以上にする。(昨年度 96.2%)</p> <p>① R5: 98.6% 達成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 1-10【基本的な方向 2-4 インクルーシブ教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援教育サポーターやデジタル教材を活用し、障がいのある生徒の自立を支援する。 ● 近隣の学校園との交流を通して、障がいに対する理解や専門性を高め、校内の指導・支援体制の充実を図る。 <p>① 校内調査「人権問題について正しく理解するとともに、様々な立場にある生徒の理解に努めていますか」に肯定的な回答をする教職員の割合を 100%にする。(昨年度 100%)</p> <p>① R5: 100% 達成</p>	B
<p>取組内容 1-11【基本的な方向 2-5 多文化共生教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 在日外国人教育基本方針に則り、教職員研修を実施し、渡日生徒への就学・学習支援、仲間づくり・進路選択の支援を、母語支援員や外部講師、ICT 等の活用により実施する。 <p>① 校内調査「様々な文化を理解し、ルーツのある仲間と協力することができましたか」に肯定的な回答をする生徒の割合を年度内で向上させる。</p> <p>① R5.7: 91.9%、R5.12: 94.8% 達成</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容 1-2【基本的な方向 1-2 不登校への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指標①では 4.6%と、目標を達成できなかった。
次年度(今後)への改善点
<p>取組内容 1-2【基本的な方向 1-2 不登校への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 家庭訪問や学習支援、保護者との関係づくりなど、地に足をつけた地道な取組をしっかりと行い、おとなしく目立たずとも地道に頑張っている生徒が安心して学ぶことのできる環境の構築に努める。また、「学校安心ルール」に基づき、問題行動の対応について連携し、毅然と対応するとともに、スペシャルサポートルームの活用についても、場所の移動やスペースの有効活用などの見直しが必要である。

大阪市立難波中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標										達成状況
未来を切り拓く学力・体力の向上										
全市共通目標										
<ul style="list-style-type: none">● 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を46%以上にする。<ul style="list-style-type: none">➤ R4: 45.3%、R5: 55.7% 達成● 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。										
		R3		R4		R5				
3年生	国語	0.95	0.91	0.87	数学	0.88	0.80	0.85		
2年生	国語	---	0.86	0.98	数学	---	0.90	0.93		
1年生	国語	---	---	0.89	数学	---	---	0.78		
<ul style="list-style-type: none">● 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を49%以上にする。<ul style="list-style-type: none">➤ R4: 48.2%、R5: 45.0%● 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。<ul style="list-style-type: none">➤ R4: 54.1%、R5: 65.1% 達成										
学校園の年度目標										
<ul style="list-style-type: none">● 校内調査「授業の内容が分かるようになっていきますか」に最も肯定的な回答をする日本語指導が必要な生徒の割合を55%以上にする。<ul style="list-style-type: none">➤ R5: 75.0% 達成● 校内調査に「規則正しい生活をしていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合を74%以上にする。<ul style="list-style-type: none">➤ R5: 75.5% 達成● 校内調査「毎日歯を磨いていますか」に否定的に回答する生徒の割合を2%未満にする。<ul style="list-style-type: none">➤ R5: 0.9% 達成● 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を昨年度よりも向上させる。<ul style="list-style-type: none">➤ R4: 男子 45.37、女子 46.44、R5: 男子 39.29、女子 42.05										

B

……指標、

……結果

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 2-1【基本的な方向 4-1 言語活動・理数教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 相互参観や研究授業を通じて授業改善を図り、習熟度別少人数授業等や補充授業を実施し、すべての教科において基礎・基本の定着を図る。 ● 主語・述語や文脈を追いつい文意を理解する力、短時間で大意を把握してその内容を活用する多読・速読などを可能にする様々なスキルを養成する。 ● ICT 環境を最大限に活用し、数理能力、論理的思考力、情報活用能力を育成する。 <p>① 校内調査「授業で分からないときやもっと知りたいとき、そのことについて教えてもらっていますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。(昨年度 58.3%)</p> <p>② 校内調査「学校はパソコンなど ICT 機器を活用した授業等の取組みを進めていますか」に最も肯定的な回答をする保護者の割合を昨年度より向上させる。(昨年度 40.0%)</p> <p>① R5: 66.7% 達成</p> <p>② R5: 25.9%</p>	B
<p>取組内容 2-2【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● すべての授業において、「めあて」を共書きすることで目標の定着を図るとともに、学力向上に支援を要する生徒に対して、学習習慣や基礎学力の定着を図る。 ● 担当指導主事やスクールアドバイザーによる支援を受け、主体的・対話的で深い学びの視点から授業力を高めるとともに、子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させる。 <p>① 校内調査「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を 45%以上にする。</p> <p>② 文章を書く機会を多く与え、テストでの無回答率を 10%以内におさめる。</p> <p>① R5: 55.7% 達成</p> <p>② R5: 15.45%</p>	C
<p>取組内容 2-3【基本的な方向 4-3 英語教育の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ネイティブ・スピーカー活用し、生きた英語を学び、集中的に英語を使う機会を設け、生徒の豊かな語学力・コミュニケーション能力等を育成する。 <p>① 校内調査「授業の内容が分かるようになっていきますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。(昨年度 47.2%)</p> <p>① R5: 61.9% 達成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 2-4【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 授業や体育的行事、部活動を通じ、自己の最善を尽くして運動する態度を養い、体力の向上と心身の調和的発達を図る。 ● 生涯にわたって運動に親しむ習慣を確立させ、健康の保持増進と体力向上を図る。 <p>① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、昨年度よりも 1 ポイント以上向上させる。(昨年度男子 45.37、女子 46.44)</p> <p>① R5: 男子 39.29、女子 42.05</p>	C
<p>取組内容 2-5【基本的な方向 5-2 健康教育・食育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校保健計画に基づき、健康教育の推進を図り、毎週の安全点検や保健や健康、食育についての特別授業、昼食後の歯磨き指導を実施する。 ● 健康な食生活や食物アレルギー対応について周知し、生徒・家庭の健康や食への意識向上を図る。 <p>① 校内調査「自身の健康について意識し、健康管理や感染対策ができていますか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。(昨年度 47.8%)</p> <p>② 校内調査「子どもは毎日朝食をとっていますか」に最も肯定的な回答をする保護者の割合を昨年度より向上させる。(昨年度 74.5%)</p> <p>① R5: 52.8% 達成</p> <p>② R5: 67.4%</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容 2-2【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指標①では 55.7%と、目標を達成できたが、指標②では、15.45%と、目標に届かなかった。
<p>取組内容 2-4【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指標①では、男子 39.29 ポイント、女子 42.05 ポイントと、目標に届かなかった。
次年度(今後)への改善点
<p>取組内容 2-2【基本的な方向 4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒間で話し合う活動については学校全体で定着してきているが、活動のためのしっかりとした「型」が全員一致で示されていない。また、自分の考えを論理的に伝える力が弱いため、深い学びにつながりにくい。次年度に向け、論理力を身につけるための取組(R80)を、すべての教科指導や教育活動においてすすめる。また、授業での説明や発問に対しても全教員がそれを意識した授業展開を行う。
<p>取組内容 2-4【基本的な方向 5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対象学年は比較的小となし、全力で取り組む点で弱さが目立つ。集団種目では協力し、良さを発揮するが、個人種目では向上心に課題がある。個々の目標設定を意識づけ、授業以外でも運動に取り組む習慣を身につけさせる。

大阪市立難波中学校 令和 5 年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
学びを支える教育環境の充実 全市共通目標 <ul style="list-style-type: none"> ● 学習者用端末を活用した学習を、教科の授業実施日には毎日実施する。 ➤ R5.11: 100% 達成 ● 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 75%以上にする。 ➤ R5.12: 75.0% 達成 ● 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 1 を満たす教員の割合を 39%以上にする。 ➤ R4: 35.48%、R5.12: 31.03% 学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ● 校内調査「読書をすることは好きですか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を 38%以上にする。 ➤ R4: 37.7%、R5: 37.3% ● 部活動指導員を配置した部の顧問の部活動指導に関わる時間の平均を昨年度よりも減少させる。 ➤ R4: 135:56、R5.12: 91:50 達成 ● 校内調査「学校の様子や取組について、ホームページ等でよく知ることができていますか」に最も肯定的な回答をする保護者の割合を 48%以上にする。 ➤ R4: 47.3%、R5: 36.0% 	B

*** ……指標、 *** ……結果

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容 3-1【基本的な方向 6-1 ICT を活用した教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> ● 1 人 1 台端末や教育情報パソコンを生かし、効果的な場面でデジタルドリルや協働学習支援ツールを活用し、デジタルと紙それぞれの良さを生かす。 ● ICT によって生徒の心身や生活の状況を可視化し、子ども理解の深化、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見・迅速な対応に繋げる。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">① 授業日における学習者用端末の活用率を 100%にする。</div> <div style="background-color: yellow; padding: 2px;">① R5.11: 100% 達成</div>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 3-2【基本的な方向 6-2 データ等の根拠に基づく施策の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1人1台端末を活用した生徒の学習履歴を分析し、学習指導に活かす。 <p>① 「navima」や「プリントひろば」などのデジタルドリルを活用する教員の割合を、年度当初よりも増やす。</p> <p>① R5.8: 35.7%、R6.1: 38.5% 達成</p>	B
<p>取組内容 3-3【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ゆとりの日や学校閉庁日の設定、勤務時間の割振り変更等により、休みを取りやすい環境づくりに努める。効果的な校務での ICT 活用推進を図る。 ● 欠席連絡アプリや今後導入される半自動採点システムを効果的に活用し、事務作業の軽減化を図る。また、部活動指導員の獲得や、外部スポーツクラブとの連携を図り、教員の負担軽減を図る。 <p>① 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 55%以上にする。</p> <p>① R5.12: 54.84%</p>	
<p>取組内容 3-4【基本的な方向 7-5 カリキュラム・マネジメントの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校・生徒の実情・実態に即した教育実践の展開に向け校長経営戦略支援予算等を適切に執行する。 ● 言語能力の向上、探究・読解プログラムにおける研修の充実を図り、教科横断的な視点で組織的に目標達成を図る。 <p>① 校内調査「学校教育目標や運営に関する計画を理解し、その実現のため、主体的に行動している」に肯定的な回答をする教職員の割合を 80%以上にする。</p> <p>① R5: 100.0% 達成</p>	B
<p>取組内容 3-5【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 司書教諭や主幹学校司書と連携し、調べ学習に役立つ蔵書や生徒が興味を持てる蔵書の充実を図るとともに、図書環境の充実を図る。 <p>① 校内調査「読書することは好きですか」に最も肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度より向上させる。(昨年度 37.7%)</p> <p>① R5: 37.3%</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容 3-6【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校運営に対し、保護者や地域住民の参加を促し、学校の積極的な情報発信による開かれた学校づくりを推進する。 ● 運営に関する計画の策定などに、学校関係者の意向を反映し、学校関係者評価を通じて、開かれた学校運営を推進する。 <p>① 学校ホームページの管理画面における月当たりアクセス数を昨年度よりも向上させる。(昨年度 5251.7 件/月)</p> <p>① R5: 5113.6 件/月</p>	C
<p>取組内容 3-7【基本的な方向 9-2 地域学校協働活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校元気アップ地域本部や PTA、学校・家庭・地域の連携による総合的な教育力の向上を図る。 <p>① 校内調査「学校の美化や登下校の見守り、学習支援や学校行事の運営など、保護者や地域の人と協力した活動を行いましたか」に肯定的な回答をする保護者の割合を、年度当初よりも増やす。</p> <p>① R5.7: 69.4%、R5.12: 76.7% 達成</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>取組内容 3-3【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指標①では、54.84%と、目標にわずかに届かなかった。 <p>取組内容 3-5【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指標①では、37.3%と、目標にわずかに届かなかった。多文化共生の観点から、さまざまな国の本を整備し、読み聞かせの機会など設けたが、思うような結果とならなかった。 <p>取組内容 3-6【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指標①では、5113.6 件/月と、目標に届かなかった。
次年度(今後)への改善点
<p>取組内容 3-3【基本的な方向 7-1 働き方改革の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 様々な ICT ツールを活用し、効率化を図っているが、その活用は完全には浸透していない。また部活動指導で一部教員の時間外勤務にも課題が残る。 <p>取組内容 3-5【基本的な方向 8-3 学校図書館の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後も読書環境の整備・充実を図り、自主的な読書活動の推進に向けて取組を進めることは継続するが、ポスター広告の工夫などでは、1 人 1 台端末を活用するなどの工夫を行う。 <p>取組内容 3-6【基本的な方向 9-1 教育コミュニティづくりの推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校ホームページというシステム自体、これだけ SNS が普及してきている時代であるから、発信の仕方を新たに考えていく時期であるが、学校運営に対する地域住民への発信についてはホームページおよびその RSS サービ

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>スを活用し、保護者連絡については欠席連絡アプリを活用するなど、確実な周知方法を構築する。また、それにより、学校運営に対する保護者や地域住民の参加を促す。</p> <ul style="list-style-type: none">● 今年度は「探究・読解プログラム」で e-sports をはじめ、さまざまな学校・企業とのつながりができた。また、次年度は浪速区制 100 周年である。「探究・読解プログラム」等を通して、地域資源と協力・連携した取組を進める。